

平成 28 年 3 月 15 日発行

浦安市社会福祉協議会
浦安市災害ボランティアセンター
〒279-0042 浦安市東野 1-7-1
☎047-355-5520 fax 050-3153-2421
E-mail info@urayasusvc.jp

NEWS & TOPICS

～毎号、災害ボランティアに関するニュースや出来事をお知らせします～

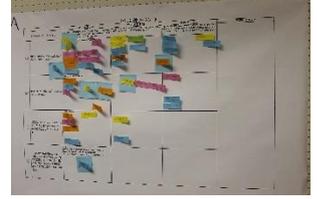
災害ボランティアセンター運営訓練の実施

今年度は運営訓練を、災害図上訓練（2月20日（土）場所：総合福祉センター）、災害ボランティアセンター運営訓練（2月28日（日）場所：交通公園若潮公園）の2部構成にして行いました。

災害図上訓練では、ファシリテーターとして災害救援ボランティア推進委員会の天寺純香氏をお招きし、社会福祉協議会支部推進委員、民生委員児童委員、災害ボランティアネットワーク、災害ボランティア運営検討委員会、青年会議所の各団体より総勢67名の参加者、本会職員16名の計83名での訓練となりました。

市内を11の地域に分け、それぞれお住まいの地域に参加し話し合いを始めました。はじめに市内のライフラインや避難所、公共施設などを地図に落とす作業を行い、それを基に被災者が困りそうなことを発災3日後、1週間後、1か月後と段階を分けながら練りだし、その中で災害ボランティアセンターとして受けられるニーズは何かについて話し合いを行いました。時に意見がぶつかりながらも被災された方のために地域住民として、所属団体の構成員として何ができるのかを真剣に話し合う姿を見て、参加されたみなさんの「本気度」がわかった訓練となりました。

参加された感想として「改めて地域を見つめなおす機会になった」、「地域のみなさんと話し合う大切さを感じた」などのご感想をいただきました。終了後、職員で「評価・検討会議」を行い、運営訓練で使用するコースの検討をおこないました。



運営訓練では、引き続き災害救援ボランティア推進委員会の天寺純香氏、e コミマップ活用として防災科学技術研究所の水井良暢氏に協力を仰ぎ、運営者協力として浦安市災害ボランティアネットワーク、ボランティア役として社会福祉協議会支部推進委員、民生委員児童委員、青年会議所の各団体、当センター災害ボランティア登録者、有志協力者総勢92名の参加者、本会職員41名、計133名が参加し、実際にボランティアを受け入れ活動に結び付ける訓練を行いました。

今回の訓練は通常の運営訓練に加え、災害ボランティアセンター運営スタッフのスキルアップを目的としてところどころにトラブルを入れるなど、実際の状況に臨機応変に対応できる場面も設けました。

一通りの流れが終わった後、トラブル発信者の協力ボランティアの方とその対応をしたスタッフで、どのようなトラブルをどう対応したかの情報共有を行いました。みなさん本番さながらの演技をしていただいたことでスタッフも本気で対応できたことはとても良い成果となりました。

また、本訓練で富士フィルムビジネスサプライ様に大型印刷を、ウチダ・ファミリー・コーポレーション様に配布用飲料のご協賛をいただきました。

今回の訓練で出た反省点や問題点をひとつづつクリアして、充実した運営を行っていきます。

ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。



平成 27 年 9 月 関東・東北豪雨による常総市災害ボランティアバス運行及び舞浜ビーチクリーン作戦決行

9月に関東・東北を襲った「平成 27 年 9 月 関東・東北豪雨」により、茨城県常総市をはじめ、多くの場所で豪雨被害がありました。

本センターでは、この被害を受け、10月4日（日）・9日（金）でボランティアを募り、常総市へボランティアバスを運行し、現地支援活動を行ってきました。活動は家屋内の片づけ、泥の撤去などを行い、泥だらけになりながらも被災者のために頑張って活動されていたのは印象的でした。

参加者からは「現地の方の話が直で聞けて良かった」「参加した皆と一緒に良かった」などの感想でした。

また、同災害により市内にある「舞浜ビーチ」に多くの漂着物があったため、10月10日（土）にボランティアの方々と一緒にビーチ清掃活動を行いました。

災害はいつ起こるかわかりません。できることを今のうちに準備して来る災害に備えましょう。



防災☆ママカフェ@浦安を開催

10月26日（月）子どもを守れるママになろうをキーワードに「防災ママカフェ@浦安」を開催しました。

スマートサバイバープロジェクトの方を講師に迎え、ママ目線での災害が起こったとき、起こる前の準備などの講話やヒートパックを用いた非常食の調理・試食を行いました。

参加したママたちは真剣な表情で話しを聞いていました。また、ヒートパックに水を入れた瞬間は感嘆の声が挙がりました。

参加したママたちからの感想として、「子ども目線での防災リュックを考えたことがなかった」「いつかはではなく、来る！！と思って行動する。子どもは自分が守る」「この経験をママ友にも伝えたい」「子どもの手は絶対離さないという言葉が印象的だった」など、忘れがちなあった災害についての認識を改めてされていました。



福島県いわき市・相馬市・南相馬市へ災害ボランティアスタディバス運行

11月28日（土）から29日（日）にかけて、東日本大震災で甚大な被害を受けた福島県いわき市と相馬市・南相馬市を訪問しました。

1日目は市総合福祉センターを出発し、いわき市にある小名浜地区復興支援ボランティアセンターへ伺いました。震災当時の状況や被災地の現状、本センターの活動などについて説明を受け、その後、市内をバスで周回し被災地の状況を視察しました。

2日目は南相馬市から相馬市に一時移転している福島県福祉事業協会の福祉施設「原町学園」を訪問し、施設のみなさんと一緒に、花の苗植え等のボランティア活動を行ったあと、全員で「花は咲く」などを歌い踊りながら交流を深めました。なお、使用した花（パンジー、シクラメン）、園芸用土、プランター等は浦安市緑化事業協同組合様から施設に寄付していただいたものです。ご協力ありがとうございました。

この施設での活動を終え、NPO浮船の里の職員の方に添乗していただき、福島県内で最も原発被害により避難している方が多い双葉郡を視察しました。非日常的な風景が広がっていて、現地の方はこれが日常であること、帰りたくても帰れない現状など辛い状況を目の当たりにし、震災から時が止まっているような感覚となりました。その後道の駅南相馬に寄り浦安へと帰路につきました。

